JENKINSインストールマニュアル

作成者：保坂元八

作成日時：2014/07/31

## 新PCの事前準備

１、プロジェクトでmakeが通る環境を構築します。  
２Windows Updateを手動でかけて､windowsを最新の状態にします。  
　(自動だと、SPなどの大きいパッチが飛ばされてしまうことがあります。)

## Jenkins, Tomcatのダウンロード

以下のURLから最新版をダウンロードします。

Tomcat : <http://tomcat.apache.org/> > exe形式のインストーラー

Hudson : <http://hudson-ci.org/> > ファイル単体「jenkins.war」

## 環境変数の設定

１、マイコンピュータを右クリックして、プロパティを開きます。

２、「詳細設定」タブの「環境変数」ボタンを選択します。

３、「システム環境変数」の「新規」ボタンを押します。

４、変数名に「JENKINS\_HOME」といれ、変数値に「c:\.jenkins」と入力します。

## Tomcatのインストール

途中で設定する「Administrator Login」には任意のID・パスワードを設定してください。（忘れないようにメモしておいてください。）

他はデフォルトのまま「NEXT>」押してください。

## Tomcatの設定

タスクトレイのアイコンを右クリックし、「Configure」を選択します。

Generalのタブ＞

Startup type:Automatic

起動したときに自動的に開始するようになります。

Log Onのタブ＞

「Allow service to interact with desktop」にチェックを入れてください。

デスクトップと対話する形式のアプリが使えるようになります。

Javaのタブ＞

Initial memory pool : 256 MB

Maximum memory pool : 512 MB  
最小メモリを設定しないと、jenkinsで大きいプロジェクトをチェックアウトしたときにJAVAの仮想メモリが足りなくなります。

## ExcelにOLE経由でアクセスするためのフォルダの作成

以下のパスに「Desktop」という空フォルダを作成します。  
C:\Windows\SysWOW64\config\systemprofile\   
C:\Windows\System32\config\systemprofile\  
このフォルダはjenkinsでole経由でexcel 2010のファイルを開く際に必要になります。

## ファイヤーウォールの設定

WindowsファイヤーウォールでTCP：8080ポートの受信・送信を許可してください。。  
この設定により、他のPCからの8080ポートを経由したアクセスが可能になります。

## リモートデスクトップの設定

自分のマシンから入れるように、リモートデスクトップの設定を行ってください。

手順：WINメニュー→コンピュータを右クリック→プロパティ→リモートの設定→リモートのタブ→「リモートデスクトップを実行しているコンビューターからの接続を許可する」のラジオボタンを選択。

## Tomcatへjenkinsをデブロイ

Tomcatをインストールしたフォルダの中にwebappsというフォルダがあるので、

その中にダウンロードしておいた「jenkins.war」を移動してください。

## ドメインの別名定義

ここまでの設定を行うと、j  
自分のマシンからはhttp://localhost:8080/jenkins/  
他のマシンからはhttp://マシン名(もしくはIP):8080/jenkins/  
でjenkinsにアクセスすることができますが、  
マシンを引っ越ししてもいいように、ドメインをネットワークの方に別名定義して頂いてください。

例：sango-jenkins1 を定義すると   
<http://sango-jenkins1:8080/jenkins/> でアクセスできるようになります。

## Jenkinsの設定

Jenkinsのwebページから「jenkinsの管理」→「システムの設定」を選択してください。

・Subversionの設定をのワークスペースバージョンを現在使っているバージョンに合わせてください。  
・「Jenkinsの位置」のJenkinsURLにドメインを設定してください。

例：http://sango-jenkins1:8080/jenkins

ここで設定したアドレスを基準にRSSが生成されます。

## Pluginのインストール

Jenkinsのwebページから「jenkinsの管理」→「プラグインの管理」を選択し、「利用可能」のタブで以下のもののチェックボックスをチェックしてください。（フィルターアで絞り込むと見つけやすいです。）

[Build Flow Plugin](https://wiki.jenkins-ci.org/display/JENKINS/Build+Flow+Plugin)

JOBの流れをDSLで組むことが出来ます。

複雑な処理の流れを組む場合は必須です。

[Build-timeout Plugin](https://wiki.jenkins-ci.org/display/JENKINS/Build-timeout+Plugin)

タイムアウトさせるプラグインです。

JenkinsのJOBは稀にビシーになることがあるので、

タイムアウト時間を設定しておくと安心です。

[thinBackup](https://wiki.jenkins-ci.org/display/JENKINS/thinBackup)

JOBのバッグアップ・リストアを簡単に行えるプラグインです。

JenkinsのJOBを他のマシンに引っ越すときやバックアップ時につかえます。

[Job Configuration History Plugin](http://wiki.jenkins-ci.org/display/JENKINS/JobConfigHistory+Plugin)

JOB設定の変更履歴・差分が見れるようになります。リストアもできます。

[Timestamper](https://wiki.jenkins-ci.org/display/JENKINS/Timestamper)

JOB設定に「Add timestamps to the Console Output」という項目が増えるので、チェックすることでログにタイムスタンプをつけることができるようになります。ボトルネック調査に役立ちます。

その後、「ダウンロードして再起動後にインストール」ボタンを押すと必要なプラグインがダウンロードされるので、tomcatを一度停止させ、再開してください。

以上です。

おつかれさまでした。